

新聞の投書欄で無農薬談義



早朝、1kmくらいだけ一緒に歩かせてもらいました。岩手県のお寺を発って2週間ほどだとか。どっから来て、どこへ行くの？ なにを食べ、どこに泊まる？ ご家族は？・・・もちろん聞いたけど、ここでは省略。いいお顔してました。で、別れを告げた後、また1km以上、今度は一人引き返したのさ(^_^);

農薬減らした

栽培をねがう

さいたま市

窪田 正廣
(会社員 50歳)

「農薬散布で健康被害」(10月26日付)という記事が、目に留まりました。以前、大阪市に住んでいた時、隣家の女性が、農薬を散布している農地の横を通った時に、農薬が体について、腫れ物ができたと訴えがありました。

農薬は、毒薬開発の流れのなかで、生まれたというのを聞きました。その農薬が、さまざまな場所ですべて使われています。先日、わが家から歩いて4、5分のところにある拜祭ホールの駐車場

に、「除草剤散布中」との立て看板がありました。思わず、その横をさけて帰宅しました。

わが家の食べ物には、できるだけ農薬の散布回数を減らしたものにしています。農薬による危険を、最も感じているのは、農家の方だと思います。市場に一定量の出荷が必要となると、難しいと思いますが、農薬を使わずに、作物を作ることにはできないのでしょうか。健康、安全などを考えれば、農薬を減らした栽培をしてほしいと思います。そのためにも、減農薬栽培で、収穫量が減っても、農家の収入への保障などができる対策が必要になると思います。

無農薬農業は 草取りが大変

秋田・東成瀬村

杉山 あおい
(農家 38歳)

「農薬を減らした栽培をねがう」という投書(20日付)を読みました。わが家は弱小ですが農家です。農薬、化学肥料は使わずに、草は手でむしり、ニワトリのフンを肥料にしています。自家用の小さい田んぼがあって、家族が1年間食べるのにやっという田んぼですが、除草剤を使わずに、毎年6月に入ると、何度も田んぼに入り、草取りをして、コメを作っています。

記だらけになりながら、草を取っていくのですが、歩けば30秒で行け

てしまう一列が、1時間もかかることもありま。3日くらいかけて、ああ、やっと終わったと思ってしまうと、最初の列には緑色の草が生えてきて、ぞっとします。

こんな苦労して、やる意味があるのだろうかといった考えが頭に充ちてきて、消費者が情けなくなってきたりします。もちろんこれは逆恨みというか、そういうのを買ってくれる人がいるおかげで、無農薬農業が続けられる、ということもわかってはいるのですが、

年をとった農家の人が除草剤やその他の農薬を使うのを、簡単には責められないと思います。農薬を使わないでもやっいていける、やっただけの価値が感じられる農薬をしてほしいと思います。

無農薬農業を 楽しむ心と技術

北茨城市

すずき産地
(百姓 50歳)

「無農薬農業は草取りが大変」(11月26日付)におせっかいです。私は、Uターンして農業を継ぎました。水田350アールほどで、数年前から完全無農薬に踏み切っていますが、消費者に買ってもらうために農薬散布を我慢していると考えたことはありません。

かつて農薬散布をした後にビールを飲んで、ひどい悪酔いに苦しんだ経験があります。試しに夜に農薬を散布すると、ライトの光で大量の粉が浮かび上がっ

て見えます。体いっばいに農薬をまぶしているようなものです。いちばん農薬の害を被るのは農家自身です。30秒で歩ける一列に1時間もかかると書かれていますが、雑草が育つてからの作業と推察します。「草を見てから取るのは中農。上農は草を見ずして草を取る」と言われます。逆恨みするより前に作業の工夫や技術向上の余地があるように思います。

ちなみに先の格言は「草を見ても取らないのが下農」とつづきます。うちでは今年、雑草に負けて、60アールほどで稲の収穫を断念しました。それでも、頼まれもしないのに苦労して流す汗は心地い

いと輝かっています。

しんぶん「赤旗」の投書欄に知っている名前を見つけました。右の杉山さん。秋田県の東成瀬村に埼玉県から移住して農業を始めた若いご夫婦で、ホームページも開いています。

<http://kat.cc/29dcf8>

シンガーソングライターで、本を出版して、マンガも描いて、多彩な田舎暮らしをしていると思いきや、こんな愚痴をこぼしたりもするんだ・・・ちょっと励まさないや。

なお、関連で上段の記事も転載しました。

というわけで、勝手に書いてみたのが、下段。体裁や字数をそろえて談義に加ってみました。まだ実際に投稿したわけではありませんが、本人にはメールで送るつもりです。その前に、ここに掲載しちゃうんだけど(^_^);